

塩の道の資料を守るために

古い民家を移築した塩の道資料館を毎年4月から11月末まで開館しています。

資料館では、かつて塩の道を行き来していたボッカ、牛方などが運搬に使った民具や地元につながる生活用具、約2,100点を展示し、地域の伝統・文化の継承を目指して活動しています。

塩の道とは

正式には「松本街道」と言い、越後糸魚川と信州松本を結ぶ約120kmの生活の道で、塩を中心とした生活物資の輸送が行われていました。

ボッカや牛方と呼ばれる人たちは平均50kgもの生活物資を1日平均30km担いで歩いたと言われています。

平成14年3月に塩の道は国史跡に指定されました。

貴重な資料の保存のために

かつて塩の道を往来した運搬具のうち、706点は特に貴重な資料として国の有形民俗文化財に指定されています。

また、資料館の建物自体も200年以上前の江戸時代に建てられたものであり、雪国民家の特徴を見ることができる貴重な建物です。

こうした貴重な資料を有する資料館ではありますが、建物の老朽化による屋根の葺き替えや修繕に多額の費用がかかり、維持が困難となってきました。

貴重な資料を保存し、後世に継承していくためにも、皆様方のご支援を是非ともお願いいたします。

